

- 1 事業名 平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
イーハトーブ チャレンジ キャンプ・冬
- 2 趣 旨 大学生を対象に、自然体験活動をとおして、主体的に考え、協力する態度など、社会人として必要な力を身に付けることを目指す。
- 3 期 日 平成30年2月21日（水）～2月23日（金）2泊3日
- 4 参加者 大学生 10名
- 5 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立岩手山青少年交流の家
- 6 共催 みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会
- 7 後援 岩手県教育委員会

8 内 容

(1) 日 程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
2/21 (水)								受付	開 会 行 事 ・ O R	基 礎 社 会 力 人 診 断	ア ク シ ヨ ン ① ～ レ ク リ エ ー シ ヨ ン ～	夕 食 ・ 休 憩	シ ン キ ン グ ① ～ ワ ー ク シ ョ ッ プ ① ～	ふ り か え り	入 浴	就 寝 準 備	就 寝	

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
2/22 (木)	起 床 ・ 身 支 度		朝 食 ・ 準 備	チ ャ レ ン ジ ・ チ ー ム ワ ー ク ① ～ 冬 の 鞍 掛 山 登 山 ～						フ リ ー タ イ ム	ア ク シ ヨ ン ② ～ ア ド ベ ン チ ャ ー プ ロ グ ラ ム ～	夕 食 ・ 休 憩	シ ン キ ン グ ② ～ ワ ー ク シ ョ ッ プ ② ～	ふ り か え り	入 浴	就 寝 準 備	就 寝	

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
2/23 (金)	起 床 ・ 身 支 度	朝 食 ・ 準 備	退 所 点 検	チ ャ レ ン ジ ・ チ ー ム ワ ー ク ② ～ 雪 像 づ く り ～				昼 食	ふ り か え り	閉 会 行 事

- アクション①：スノーモービルラフティング，迷子探しゲームなど  
シンキング①：グループワーク「自然体験活動の魅力を伝えるポスターを作ろう」  
アクション②：グループワーク「自然物で自立する最強の2足歩行型のロボットを作ろう」  
シンキング②：合意形成「どんな雪像を作るか考えよう」

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家	登山指導員	大友 晃 氏
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	工藤 祐幸
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係長	田口 康宏
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	山崎 啓陽

### (3) 企画のポイント

自然体験活動の効果として、達成動機の向上や有能感の向上、自律心の向上、他者受容、自己決定、コミュニケーション能力、生きる力の向上などがあげられるが、これらの能力は経済産業省が提唱する社会人基礎力（「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力とその下位要素として「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の12の能力を言う）と重なる部分が多い。このことから、これから社会人となる大学生を対象に、大学生にとって自然体験活動が自己の成長にどのような効果があるかを検証することをねらいとした。また、ボランティアが多く所属する盛岡大学の試験の日程などと重ならないように期日を設定した。

### (4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、北東北3県の大学・短期大学と岩手県内の報道機関へ開催要項とチラシを送付するとともに、館内にポスターを掲示して大学生の利用がある際には声かけを行った。

### (5) 運営のポイント

初日に社会人基礎力調査を行い、参加者が自身の社会人基礎力について自己分析する機会を設けた。その分析結果が似ている者同士や、違う者同士など、いろいろなバリエーションで組み合わせたグループ編制を行い、レクリエーションやワークショップを実施した。毎日のふりかえりも社会人基礎力を意識する内容とし、他者と比較して自己を分析するなど工夫した。グループワークを多くし、自然体験活動とおしたチームビルディングを行い、社会人基礎力を育成するという考えを基本スタンスとした。

対象が大学生のため、冬の鞍掛山登山やスノーモービルラフティングなど、なるべく今までにやったことがないような体験を多く取り入れ、心を解放し感動が生まれやすい状況を作ることができるよう心がけた。

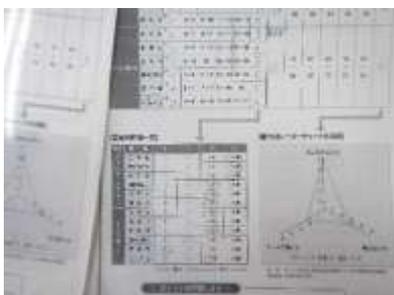
## 9 成果とその普及

参加者のアンケートでは、「一つ一つの企画が楽しく、充実した活動だった。『自分について知る』機会になったと思う。自然体験と社会人基礎力というテーマがあって、今の私たちに必要なものだったのではないかと感じた。」「自然体験活動を満喫できるプログラムだったと思います。今回の雪山登山や雪像づくりをとおして魅力をたくさん知ることができました。そして、それを子供たちにも伝えたい！という気持ちも高めることができました。雪山で急斜面を下ったり登ったりするのも、高校の時までの自分では怖くてできなかったと思う。しかし、今回チャレンジしてみて、仲間のおかげで成功できたので良かった。いつも一緒に活動している人の新しい面が見えたり、信頼関係をより深めたり、良い事づくりのキャンプでした！」「一年後にまた自分の社会人基礎力を調べて、どう変わったかをみてみたいと思いました。」など前向きな感想が多く寄せられ、自然体験活動とおしたチームビルディングで自己の成長に繋げるという当初のねらいを達成することができたとともに、大学生にとっても自然体験活動は有効であることが分かった。

## 10 今後の課題

参加者が全員法人ボランティアであり、気心の知れた者同士でのグループワークになってしまったため、グループ分けによる効果がどの程度あったのか、今後より深く検証していく必要がある。

また、自然体験活動が好きな人が集まっているため、自然体験活動に興味のない人に参加してもらえようような仕組みを作っていく必要がある。



社会人基礎力調査



鞍掛山登山



雪像作り